

第 50 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 大阪宣言 ～動脈硬化の 0 次、1 次、2 次予防を目指して～

動脈硬化は脂質異常症、糖尿病、高血圧、喫煙、メタボリックシンドロームなど、様々な要因が関与して進行します。動脈硬化の進行により、心筋梗塞や脳梗塞等の動脈硬化性疾患が発症します。日本動脈硬化学会はこの動脈硬化性疾患の制圧に向けて、基礎・臨床研究に取り組んで参りました。本学会の諸先輩方が、動脈硬化性疾患の克服を目指して研究されてきた半世紀を総括しますと、世界に先駆けたスタチンの発見とその臨床応用、家族性高コレステロール血症(FH)に関する遺伝学的研究と治療法の開発、CETP 欠損症の発見とその意義に関する研究、VLDL 受容体等のリポ蛋白代謝・動脈硬化関連の新規遺伝子の同定は有名です。また、日本動脈硬化学会は、内臓脂肪の蓄積による動脈硬化危険因子の集簇という内臓脂肪型肥満、内臓脂肪症候群の概念の確立を背景に、2005 年には内臓脂肪の蓄積による動脈硬化危険因子の集簇に着目したメタボリックシンドロームの診断基準を内科系 8 学会と共同で作成し、これはその後の特定健診の制度化へと結びつきました。また、2017 年には動脈硬化性疾患予防のためのガイドライン(JAS ガイドライン)を改訂し、本年 6 月には脂質異常症診療ガイド 2018 年版も刊行し、医療関係者への普及活動を行ってきました。しかしながら、動脈硬化の予防については、更に幅広く社会の認知と啓発が必要です。そこで、日本動脈硬化学会においては、第 50 回の記念すべき総会・学術集会において、今後の半世紀を見据えて、以下の大阪宣言を行います。

大阪宣言

日本動脈硬化学会は、ガイドラインに基づく診療による脳心血管病の抑制効果を実証するとともに、行政とも連携して以下の事項に関して国民への啓発活動に、他学会とも協調して取り組みます。

- メタボリックシンドローム、糖尿病における心血管病制圧を目指した動脈硬化性疾患予防のための基礎・臨床研究の推進
- 動脈硬化性疾患予防・治療のための薬剤開発に関する研究
- 家族性高コレステロール血症(FH)を含めた原発性高脂血症の早期発見、診断率向上のためのスクリーニング体制の整備と早期治療を目指した啓発活動
- 優れた健康長寿食である日本食(The Japan Diet)の国内外への発信
- 「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」の栄養成分表示記載の義務化へ向けた活動の推進
- 禁煙推進と受動喫煙防止のための国民及び行政への啓発活動
- 動脈硬化性疾患予防に取り組むメディカルスタッフの養成と多職種連携の推進